

## 5班：「IR室の誕生から成長」

○藤井都百（名古屋大学）、岡部康成（帯広畜産大学）、松岡琢磨（新潟大学）、佐々木千加子（信州大学）、深草舞（京都工芸繊維大学）、佐藤麻衣子（首都大学東京）

### 1. 議論結果の概要

5班のメンバーは国公立大学の教職員で、それぞれの所属大学におけるIR室関連の課題を持ち寄った。このうち3校は既にIR室やそれに準じる組織があり、残りは近日中に設置予定である。各自の課題は、IR室設置に際しての困りごとや、設置後に室の活動を軌道に乗せていくための課題が中心となった。そのため、IR室の設置前・設置後という時間軸で各自の個別課題を整理することとし、ポスターのタイトルを「IR室の誕生から成長」とした。

設置前、すなわちIR準備室に相当する段階では課題が多く挙げられたので、体制、システム、テーマの3つの見出しを付けて整理した。このうちIR室の体制については、学内での位置付け、役割、機能、他部署との連携、および室員として充てるべき人員が課題として挙げられた。このうち、IR室員には複数の専任教職員を置くことが必要というのが設置した大学に共通する意見だった。学内事情に詳しいことが理想で、例えば大学評価業務は学内のデータ所在を把握できることから、評価業務経験者をIR室員とするのは一つの良い選択肢と言える。また、IR室と密な連携が見込まれる執行部との関係については、役員室と同じフロアにIR室を置いて物理的にも距離を縮めるという解が出された。

システムについては、IR室設置準備段階に基盤システム導入の検討が含まれている等、活動が始まる前に設計を検討する困難が指摘された。実際に導入したIRシステムがあまり使えないものとなってしまい、実施したい分析をするために別のIRシステムを再度導入したケースもあったとのことで、IR室の業務が開始してからIR基盤システムを設計しても遅くないという示唆が得られた。学内のデータは、ファクトブック作成などを通じて集積することもでき、大がかりな基盤システムが無くても進められそうな業務を通してIR室で行なう分析を明確化していくことも考えられる。

IR室が何のテーマについて調査・分析すべきかは、執行部からの依頼が発端であることが多いが、執行部にIRについての理解を深めてもらうために、外部講師による研修会を実施したこともあった。これはIR室を設置してからの問題とも関連し、IR室にどのような分析を依頼したらよいか、分析結果をどう活用するのかが、執行部や学内構成員にIRについて理解してもらわないとうまく進められない。これにはエビデンスに基づく企画立案、計画策定を推進する等、IRの活用を浸透させていくことや、IRについて学内セミナーを開催することを通じて学内にIRを発信していくことも重要である。

最後に、成長したIR室の理想の姿として「執行部の依頼にスムーズに答える」を掲げ、ポスターのしめくくりとした。

### 2. グループ討論を通して感じた評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想等

今回のメンバーは所属大学の IR 室の時間的状况が類似しており、各自の課題に共通する部分が多く見られ、「うちだけではない」ことがいくつも挙げられた。このことから今回リストアップした課題は、IR 室設置前後の段階にある国内大学にも広く共通する課題ではないかと考えられる。グループ討論やポスターセッションでの意見交換においても解を得られなかった課題がいくつか残ったが、時間的に先行した大学の事例があればそれらに対する解が得られるかもしれない。

# 5班

# IR室の誕生から成長

卵	体制	IR室員の役割をどうするか？		学長がトップでもIR室の中立性は担保されるのか？	
		専任職員は必要か？	必要(複数人) (学内事情に詳しい人) (IR担当としての能力を持っている人)	組織での位置づけ ワークフロー	執行部との距離を縮めて、意志疎通を図る (物理的にも、精神的にも)
		評価部署等との連携方法は？		IRに必要なデータは誰がどう作るのか？ (システム導入しない場合)	
		既存の部局の業務との住み分け分担	評価経験者がIRを担当する	IR室の機能は何か。企画機能まで持たせるのか。分析屋に徹するのか。	
システム	システム	IR室設置前にシステム構築がスタート →予算がついてしまったものの、データの取扱・権限等、決めるべき事項が多い		教員からの情報収集の仕方	
		基盤システムのコスト(イニシャル&ランニング)に見合った成果(利用)が得られるか？	IRで何をやりかいかのかがはっきりしてから、システムを導入しても遅くないのではないか。	学内のデータが一元化されていない	ファクトブックの作成
		IR基盤システムの導入が確定しない(システムをどう利用するかが曖昧になるので、IR室で行う作業も確定しづらい)			【ポスターセッション中の意見交換メモ】 ●事務員のジョブローテーションで継続性を担保するために2人以上を ●執行部の認識はちゃんとするのでは？ ●既存のDBをどうまとめて活用するか？ ●解決したい問題はありますか？ ●改善に対するエビデンスを引き出すため、仕組みを使ってどう改善したんですか？と問われるはず。質の改革
テーマ	執行部のIRに対する認識	外部講師による研究会実施			
誕生	IR室の設置			トップからの要請は増えるのか？	
ひよこ		分析結果が利用されるのか？	企画立案、計画策定には、できる限りIRを活用したエビデンスを付すように周知する。	収集した生データの保存方法 (情報セキュリティの観点)	
		IR室に対する誤解(IRで何でも出来る・・・)	学内セミナー実施による事例の共有、何が出来る(でき得る)のか等の理解を深める。	導入したIRシステムが機能しなかった。	何を分析したいのか決める
にわとり	執行部の依頼にスムーズに答える	データ提供担当の負担(加工が必要な場合)		データの更新とシステムの運用	